

平成 30 年度  
岩手県自主防災組織設立・活動活性化支援事業

報告書

平成 30 年度  
岩手県総務部総合防災室




自主防災組織設立支援 ケース①

二戸市浄法寺下林地区

### 1. 対象地区の概要


地区名	下林（したばやし）
自治体名	二戸市（旧浄法寺町）
世帯数（人口）	30（78）
65歳以上割合	45%

### 2. 対象地区の位置




(C)Mapion

**二戸市(浄法寺地区)防災マップ5**



二戸市防災マップより



Google マップより

### 3. 対象地区における災害想定と既往災害

<p>■災害想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急傾斜地崩落危険箇所</li> <li>・浸水想定区域（二級河川安比川）</li> </ul>
<p>■既往災害</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年災害（安比川による浸水） 一部損壊 11 棟、床上浸水 1 棟、床下浸水 5 棟</li> <li>・避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告等の発令 H28.8 避難勧告 2 回 避難準備 2 回（河川増水） H29.7 避難準備（河川増水）、H29.10 避難勧告（河川増水） H30.8 避難勧告（土砂）、H30.9 避難準備（土砂）</li> </ul>

#### 4. 各回の打合せ内容と取り組みの様子

回・月日	打合せ・取り組み内容
<p>1 回目 8 月 29 日</p>	<p>■ 市役所担当課と育成対象地域選定の打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浄法寺地区は二戸市中心部からおよそ20km、時間距離にして30分の隔たりがあり、災害時には即時対応が難しく、最悪の場合孤立する恐れがある。</li> <li>・ 地区全体を北流する安比川の氾濫による水害の危険性を抱える</li> <li>・ 浄法寺地域での自主防災組織の立ち上げ実績が少なく今回の事業を立ち上げのきっかけとして生かしたい。</li> </ul>
<p>2 回目 10 月 11 日</p>	<p>■ 市役所担当課および支所職員との打合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育成対象地域に関する情報収集・事業進行に関する確認。</li> <li>・ 浄法寺地区を北流する安比川については、地区内各所で浸水・避難の実績があり、検討事項としての優先度が高い。</li> <li>・ 浄法寺地区は中山間部を広く抱えており、土砂災害の危険性も有する地域がある。</li> <li>・ 常会(町内会に相当)組織が受け皿となる見込みがある地域。</li> </ul> <p>→被災実績のある下林地区を選定した。</p> 
<p>3 回目 11 月 2 日</p>	<p>■ 下林地区常会役員との意見・情報交換</p> <p>場所：馬場・下林地区コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下林地区の災害危険性 <ul style="list-style-type: none"> <li>→地区の北面に急傾斜地崩壊危険箇所が広がる。</li> <li>→地区の南面を安比川が流れ、0.5m～3.0mの浸水想定区域。</li> </ul> </li> <li>・ 下林地区における既往災害 <ul style="list-style-type: none"> <li>→平成 23 年 土砂崩れ</li> <li>→平成 25 年 安比川による浸水</li> </ul> </li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H25 安比川の浸水では、高齢者が浸水後に垂直避難、あるいは消防団による避難補助される事態に陥った。</li> </ul> <p>→高齢者の避難対応等が大きな課題として浮上したため民生・児童委員への聞き取りを実施。</p>

<p>4回目 11月29日</p>	<p>■民生・児童委員、福祉活動関係者との災害時の高齢者避難、対応等に関する情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現職・OGの民生・児童委から下林地区における高齢者の状況の聞き取りを実施した。</li> <li>・平成25年水害当時の高齢者の避難状況について。 →事前避難を促進したが、一部の高齢者が自宅に居残った。</li> <li>・民生・児童委、社協、消防団、福祉事業者の連携について →水害時の即応的な対応はマンパワーなどの都合もあり、常に社協・消防団で対応することは難しい。</li> <li>・指定避難所への避難と通所利用施設への退避では、指定避難所への馴染みの薄さもあり、通所利用施設への退避が一般的となっている。</li> </ul> 
<p>5回目 12月20日</p>	<p>■ワークショップ～地域の防災マップ作成～</p> <p>時間：18時30分～20時30分 場所：馬場・下林地区コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常会役員・班長、民生・児童委らに参加してもらい地域マップの作成に取り組んだ。</li> <li>・下林地区における災害の危険性と居住世帯の状況（独居・高齢・複数人世帯等）とを重ね合わせて災害時の具体的な対応を想定した。</li> <li>・特に、独居高齢世帯への対応については声掛け、支援者を具体的に検討した。</li> </ul> 
<p>6回目 3月30日</p>	<p>■常会役員会・総会における提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下林地区常会役員会・総会において地域の防災マップの説明を通じて自発避難の必要性と要支援者避難支援等への協力の呼びかけ指定避難所への避難とは別に、緊急避難場所としての馬場下林コミュニティセンター利用の提案などを行う。</li> </ul>

## 5. 主な成果物：下林地区 地域の防災マップ

### 浄法寺 下林地区 ワークショップによる地域マップ作成結果



地域の大部分が、急傾斜地崩壊危険箇所または浸水想定区域0.5m～3.0m未満のエリアに含まれており、平成23年度に土砂崩れ、平成25年には安比川の水位上昇に伴う大規模浸水被害に見舞われた地域である。  
下林地区では、65歳以上が占める割合が約45%（市全体35.6%）と高いため、災害時の避難方法等について、事前に協議をしておく必要があると考えられる。

【個人情報が含まれているため非表示としています。】

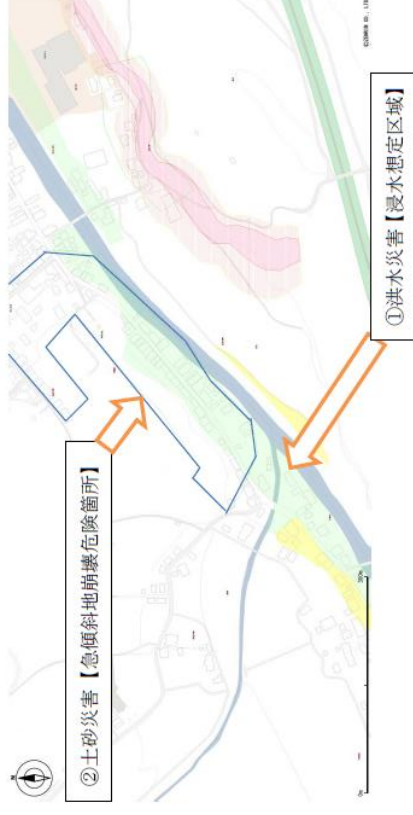
## 【地元でのワークショップを終えて】

下林地区では、①水害【浸水想定区域】や②土砂災害【急傾斜地崩壊危険箇所】の危険性が高いと考えられ、災害時にどのような命を守るか検討するため、自主防災組織結成のモデル地区に選ばれました。

モデル地区でのワークショップを重ねるうちに、消防署（団）や社会福祉協議会の活動にも初動の災害対応には難しい部分のあることがわかり、住民自身で考え、自発的に避難行動できることが必要になって来ています。

一人暮らしの高齢者等に加えて、複数人世帯でも避難確認や補助が必要と思われることがわかり、これらの世帯に対して誰が声掛けなどをするか話し合いました。

また、（市の指定避難所となっている）J ホールへ事前避難することは敷居が高く、日頃から地域で運営、使用している馬場下林コミュニティセンターを一日や一晩程度の一時避難所にするほうが現実的ということになりました。鍵開けなど災害時の具体的な運営ルールについては、今後定めたいと思います（もしくは役員会で決めました）。



**大事なことは、手遅れになる前に、早めに少しでも安全な所へ立ち退き避難を実施することです。**

**地域の特性を理解し、地域の住民の方々がどの様に協力しあえば、災害時に皆さんと一緒に避難行動ができるか、考えてみませんか？**



自主防災組織活動活性化支援 ケース①

矢巾町高田三区

## 1. 対象地区の概要

地区名	高田三区（たかだ）
自治体名	矢巾町
世帯数（人口）	347（943）

## 2. 対象地区の位置

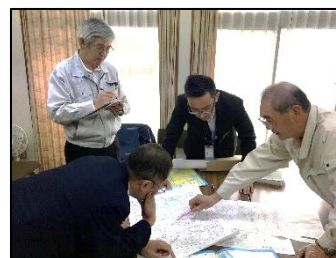


### 3. 対象地区における災害想定と既往災害

<p>■ 災害想定</p>	<p>・ 浸水想定区域（一級河川北上川）</p>
<p>■ 既往災害</p>	<p>・ 平成 19 年 9 月 秋雨前線による豪雨災害 床下浸水被害</p> <div data-bbox="422 421 1310 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>過去の災害 平成 19 年 9 月秋雨前線による豪雨災害</b></p> <p>南昌山雨量計で 251 ミリを記録、高田地区内でも床下浸水被害が発生</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>徳田橋の様子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>環境施設組合北側</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>下田工業団地付近での排水作業</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>河川敷グラウンドの冠水</p>  </div> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">矢巾町提供資料より</p> <p>・ 平成 25 年 8 月 線状降水帯による豪雨 地区内道路冠水</p> <div data-bbox="422 1245 1310 1877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>過去の災害 平成 25 年 8 月 9 日線状降水帯による豪雨災害</b></p> <p>南昌山雨量計で 272 ミリを記録 床上浸水 123 件・床下浸水 378 件</p> <p>8月10日（大雨翌日）の高田地区の様子</p>  </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">矢巾町提供資料より</p>

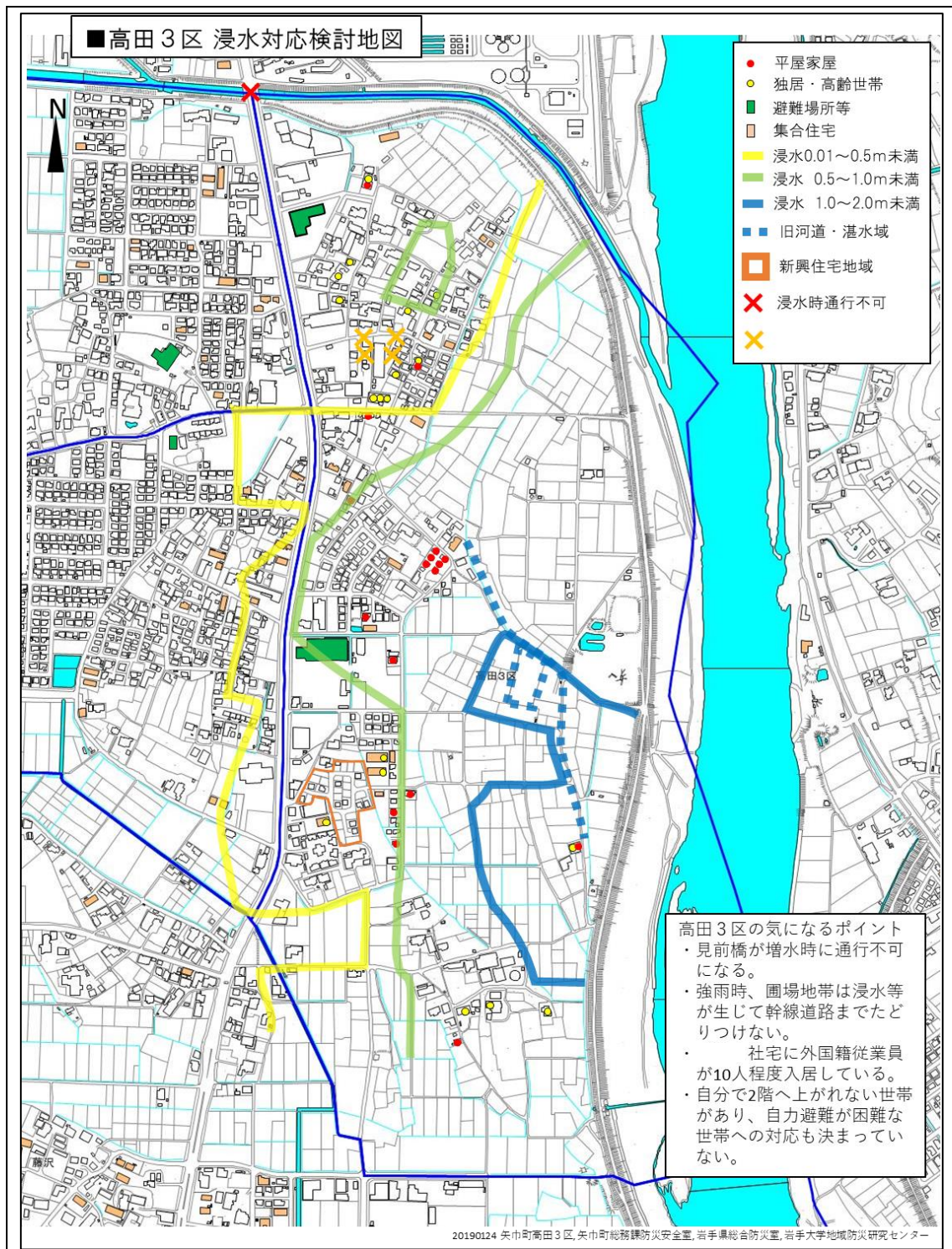
#### 4. 各回の打合せ内容と取り組みの様子

回・月日	打合せ・取り組み内容
1回目 8月30日	<p>■町役場担当課と支援対象地域選定の打合せ</p> <p>全行政区41か所で自主防を結成済み。自主防組織の育成が課題となっている。</p> <p>町として平成25年の豪雨時の町内浸水経験から、水害からの住民避難への準備も喫緊の課題。</p>
2回目 9月11日	<p>■町役場担当課と打合せ・支援対象地域に関する情報収集・事業進行に関する確認</p> <p>ある程度、モデル事例の完成が見込める地域（町内会連合会代表者がいる地域）での検討を行う。</p> <p>町内での水平展開のモデル事例、ロールモデルとして紹介できる素材を作っていきたい。</p>
3回目 10月31日	<p>■高田三区区長との情報交換および現地調査</p> <p>地域の特性や開発史、水害の履歴等について、高田3区会長に地区についてのレクチャーを受ける。</p> <p>水害の予見地域であるが、旧来から居住している住民と新規移入者や若年世代では意識の濃淡に差がある。</p> <p>水害による被災のメカニズムや具体的な被災実態について知らない、想像できない住民が多くなっている。</p> <p>→以上のような背景から地区住民に水害について知ってもらう機会として水害の勉強会を開催することとした。</p>
4回目（11月17日）	<p>■高田地区防災勉強会</p> <p>講師：小笠原敏記（岩手大学） 高橋 亮介（矢巾町役場）</p> <p>時間：13時30分～15時30分</p> <p>場所：高田コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会では水害の歴史、メカニズムについて講演が行われた。</li> <li>・勉強会後に地区役員と水害時の地域の課題について意見交換を行い、水害時の課題が見えてきたため、改めてワークショップを開催する運びとなった。</li> </ul>



<p>5回目 12月10日</p>	<p>■ワークショップ～地図から考える高田の危険～ 時間：19時00分～20時30分 場所：高田コミュニティセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図上で地区の課題を“見える化”した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→浸水時は最寄りの避難場所も浸水</li> <li>→浸水域の平屋世帯の確認 (垂直避難できない世帯)</li> <li>→独居・高齢世帯の把握 (早期避難の必要性)</li> <li>→地域との付き合いが薄い集合住宅の把握と連絡方法が課題</li> <li>→地区内での避難先候補(指定以外)の把握</li> </ul> </li> </ul> 
<p>6回目 1月23日</p>	<p>■成果地図の振り返りと今後の自主防災組織の取組みの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図の整理により明らかとなった課題を地区役員会・総会で共有していく→総会での説明後、地図の全戸配布</li> <li>・特に早期の避難が必要な世帯、自力避難が困難な世帯への情報共有と対応策の模索</li> <li>・集合住宅についても家主等と情報共有、入居者への周知</li> </ul> 
<p>7回目 3月21日</p>	<p>■役員会・総会において防災地図の説明と配布、防災対応への協力の呼びかけを行った。</p>

## 5. 主な成果物 高田三区 浸水対応検討地図



## ■まとめ

本年度事業において、岩手大学では自主防災組織の設立および活性化支援を県内2つの地区で行ったが、事業を通じて導き出された支援のスキームについては“設立”、“活性化”ともに本質的な部分では差がなく、以下の要素に集約できると考えられる。また、以下に挙げる活動支援のスキームにとらわれることなく地域の実情に応じてアレンジしていくことで、その地域に適した、無理のない範囲での自主防災活動に取り組みはじめることができるのではないかと考える。

### ○自主防災組織の活動支援のスキーム

#### ① 予想される災害の検討

→ 災害の履歴や発生が予想される災害の洗い出し

#### ② 地域の中での具体的な被害の検討

→ 具体的な災害の発生箇所や家屋等との重ね合わせで被災が懸念される範囲の確認

#### ③ 地域に詳しいキーパーソン、町会・防災関連組織等、

“コア（核）”となる人・組織団体の参画、巻き込み

#### ④ ③のコアメンバーによるワークショップやアクティビティで①、②の検証と問題の

具体化・共有を行う

#### ⑤ ④の問題への対応・取組みのうち、取りかかれそうなこと、優先度が高いことの

整理と方法の具体的な解決方法の検討

#### ⑥ ⑤で取組みが決まったことを地域へ周知・協力の呼びかけ

→ 「立上げ」、「活動内容」について、できる範囲で取組み始める工夫をし、

無理をしない範囲で取り組む